

キャラクター名
野崎 泰造

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル エグザイル	ワークス	UGN支部長C	カヴァー	弁護士
オプション		年齢	38	性別	男
覚醒	償い	衝動	自傷	初期侵食率	36 %
出自	兄弟	経験	禁断の愛	邂逅	志賀野 惇二

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	4	0	0			4	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	5
精神	0	1	0			1	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
UGN幹部	
UGN諜報部	
思い出の写真	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
[24] 超血統/フルブラッドP		N		
野崎 莉	P 純愛	N 偏愛		
野崎 翔太	P 庇護	N 偏愛		
		N		
		N		
		N		
		N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリング可能								
命のカーテン	2	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 10m以内のPCをカバー可能、Lv回/1S								
がらんどうの肉体	5	5	オート	至近	自身	自動	ピュア	
効果: HPダメージ (Lv+2) D、1回/1R								
自動触手	10	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: ガード時対象にLv×3のHPダメージ、1回/1R								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

その手で救えるだけの小さな平穏を愛する、気だるげダウン系UGN支部長。正義と規律に準ずるUGNに所属するオーヴァードだけあって平和を愛する心は持ち合わせているのだが、それ以上にそんな平和を維持するために限界を超えた力行使し続けることで支部員たちが世界の犠牲になることを極端に嫌っている。自他ともに無理をしないよう適度に手を抜くことを推奨したり、任務の危険性が高ければ躊躇うことなく本部エージェントを要請したり、「各々が己にできることを己のできる範囲内で己にできるだけ全力で取り組む」ことを支部全体のモットーとして掲げたりと彼の行動や支持の端々からもそのポリシーが伺える。そのため良くも悪くも保守的な安全策を取り続けることで、支部員全員がジャーム化どころか手傷を負うことなく任務を完遂することもあれば、若さゆえの熱血さに憑りつかれたチルドレンと意見が食い違い衝突することもある。そんな子供の戯言をのりくらりとかわしながらも、支部員たちの無理のしわ寄せを一人で背負うのは、彼がもう誰一人として家族に等しい仲間たちを失いたくないという思いの裏返しであるのだろう。

彼は喜劇のように刺激的なイベントに囲まれることもなければ、悲劇のようにひどく心を揺さぶるショックもない半生を送った。よくあるありきたりな人生と言われればそれまでだが、大きな不幸が訪れることなく終えられる人生こそが最高に幸福な人生のだと彼は考えていたため、そんな少少だけ退屈な生活に彼は満足していた。しかし、その人生哲学は徐々に狂い始める。一目惚れであった、妻との出会いは。惹かれてはだめだという葛藤に苛まれながらも、学生の初恋のような淡い思いの下、徐々にひかれあい、互いに混ざり合うように愛し合った彼らは、お互い以外のすべてを捨てて、駆け落ちすることを決めた。そんな出過ぎたといってもいいドラマチックな大恋愛こそが、彼の胸に大きく影を落とす出来事に繋がることとなる。己の人生を捧げることを決めた最愛の妻とそんな妻との間に設けた最愛の息子。二人はとあるジャームの犠牲となった。その憎むべき仇は有能で強力なUGNエージェント達に颯爽と片付けられ、残されたのは向けるべき矛先を失った情動と手に余るオーヴァードの力だけであった。何も考えることができない状態であった当時の彼は、UGNへの協力者としての調印に判を押しており、その結果またしても惨状を目にすることとなる。ウイルスが世界にまき散らされたことで、世界の均衡は大変アンバランスなものとなった。そんな世界なんかを護るために、酷使され、礎となり、使い捨てられていくUGNチルドレンとUGNエージェント達。そう、すでに幸せな家庭を築いた女性を見初めた結果、何もせずに犠牲を出してしまった自分の様に、彼らは手に余る理想を掲げ限界を超えた力行使し続けた結果、衝動に飲まれジャームに墮ち、最後には命を落としていく。大義や感情などに振り回された彼らは、自ら不幸に足を突っ込んで、喜びように死んでいく。彼の眼にはそんな平和を謳う現状が大変馬鹿馬鹿しく思えたのだ。彼ら全員を救いたいという望みは、それこそ彼らが抱くような身の丈に合わない理想。それならば、自分に救える範囲で彼らを救おう。それが彼が支部長となった経緯である。